



株主通信

2022年12月期第1四半期業績のご報告
(2022年1月1日～2022年3月31日)

株主の皆様におかれましては、
平素より格別のご厚情を賜り、
厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 長谷川 正義



当第1四半期連結累計期間における半導体市場は、原材料や部材の供給不足等による価格上昇がみられました。また、装置メーカーにおいても部材の不足や納入遅れにより、売上が伸び悩む企業が出るなど、今後もこうした状況が続くと予想されます。このような中でも、社会全般のデジタル化は進み、5G通信の普及や産業機器のIoT化に伴いデータ通信量が増加しています。これらを背景に、データセンター投資が継続し、基盤となるメモリ半導体の需要は引き続き伸びると予想されております。

一方、車載用半導体は供給不足が長期化しています。これはサプライチェーンの混乱に加え、自動運転や電気自動車の普及を背景としたアナログ半導体やマイコン、センサーなどの市場が拡大していることが根底にあります。

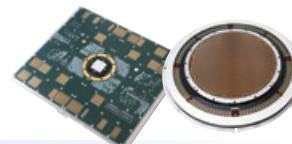
FPD市場における液晶パネルの価格は、下落から横ばいの動きがみられますが、社会情勢の変化により需要の落ち込みが懸念されております。

このような事業環境において、当社グループの売上高はプローブカードの需要が堅調となり、前年同期比で増収となりました。利益面でも高稼働率の継続により、前年同期比で増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高9,803百万円、営業利益2,163百万円、経常利益2,217百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,258百万円となりました。

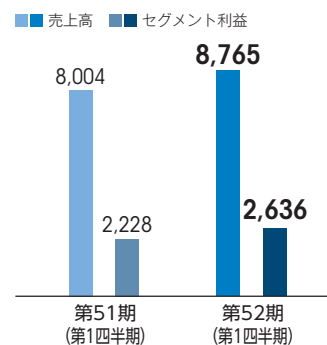
株主の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

プローブカード事業



売上高 **8,765** 百万円 前年同期比 **9.5** %増
セグメント利益 **2,636** 百万円 前年同期比 **18.3** %増

売上高/セグメント利益(百万円)



売上高は、堅調な需要が継続したことで、メモリ向け、ノンメモリ向けプローブカードともに前年同期比で増収となり、利益面でも高稼働率の継続により、前年同期比で増益となりました。この結果、売上高は8,765百万円、セグメント利益は2,636百万円となりました。

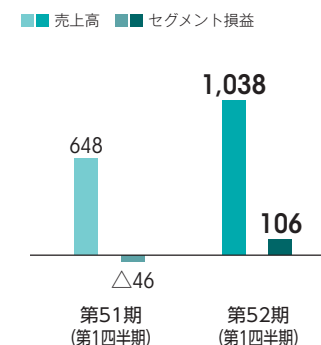
第52期よりテストソケットビジネスを、プローブカード事業からTE事業へ移管しているため、第51期の数値は紐替えて表記しております。

TE事業



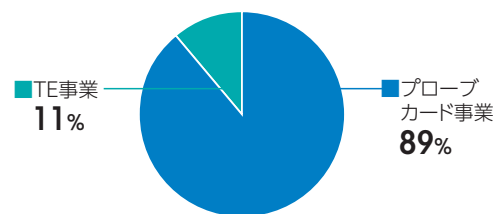
売上高 **1,038** 百万円 前年同期比 **60.2** %増
セグメント利益 **106** 百万円 前年同期比 **—**

売上高/セグメント損益(百万円)

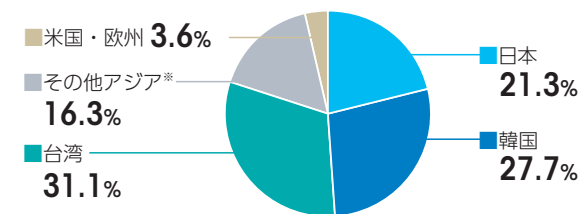


特定顧客向けの半導体検査装置、プローブユニット及びテストソケットを計画通り売り上げたことで、前年同期比で増収、増益となりました。この結果、売上高は1,038百万円、セグメント利益は106百万円となりました。

セグメント別売上高構成比(%)



地域別売上高構成比(%)



*その他アジア：日本、韓国、台湾を除くアジア地域

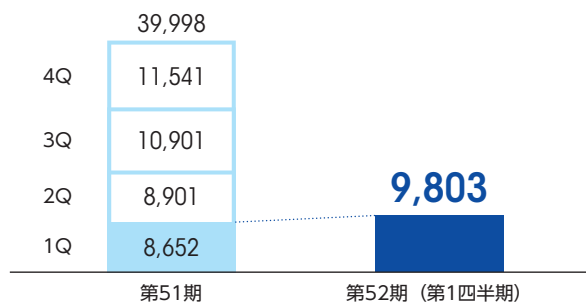
Earnings Forecast

業績予想 (2022年5月11日現在)

	第52期 第1四半期末績	第52期 第2四半期累計予想	第52期 第3四半期累計予想
売上高	9,803 百万円	19,900 百万円	32,900 百万円
営業利益	2,163 百万円	3,800 百万円	6,700 百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,258 百万円	2,400 百万円	4,600 百万円

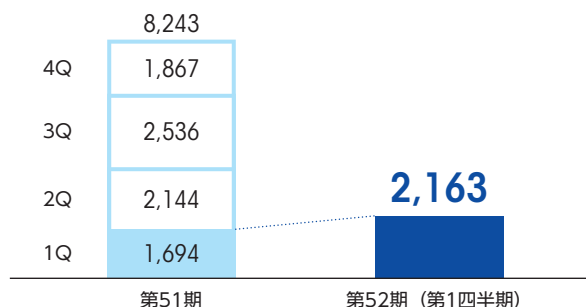
売上高 (百万円)

9,803 百万円 前年同期比 13.3%増



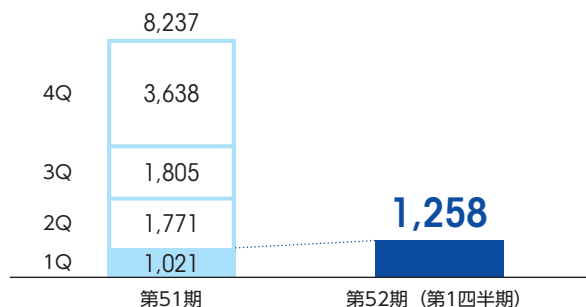
営業利益 (百万円)

2,163 百万円 前年同期比 27.7%増



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)

1,258 百万円 前年同期比 23.2%増



※各四半期の実績は、百万円以下切り捨てて表記しております。

TOPICS ▶▶ プライム市場に移行しました

当社は東京証券取引所の市場区分見直しに伴い、市場第一部からプライム市場に移行いたしました。

プライム市場は、多くの機関投資家の投資対象になりうる規模の時価総額と流動性をもち、より高いガバナンス水準を備え、さまざまな投資家との建設的な対話を中心に据えて、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする企業向けの市場と位置付けられています。

当社は、プライム市場への移行をひとつの通過点として、引き続きコーポレート・ガバナンス体制を強化するとともに、投資家と

のより充実した対話に努めます。また、ステークホルダーの皆様の期待と信頼に応えるべく、持続的な成長と企業価値向上を目指し、事業活動に取り組んでまいります。



About Stocks

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

連絡先 東京都府中市日鋼町1-1

電話0120-232-711 (通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社 日本マイクロニクス

〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8

<https://www.mjc.co.jp/>